

公益財団法人小児医学研究振興財団
平成27年度 市民公開講座

知っておきたい 小児の感染症ABC!!

日時 平成27年9月6日(日) 14:30～17:30

場所 練馬区立区民・産業プラザ Coconeri(ココネリ)ホール
西武池袋線、西武有楽町線、都営大江戸線、「練馬駅」北口直結 徒歩1分

プログラム

- 14:30 …… 開会挨拶 柳澤 正義 (公財)小児医学研究振興財団理事長
座長:岩田 敏 慶應義塾大学医学部感染症学教授
- 14:40～15:10… **発疹と感染症**
新庄 正宜 慶應義塾大学医学部小児科専任講師
- 15:10～15:40… **咳と感染症**
尾内 一信 川崎医科大学小児科主任教授
- 15:40～16:10… **嘔吐と感染症**
田島 剛 博慈会記念総合病院副院長
- 16:10～16:25… 休憩
- 16:25～17:25… **パネルディスカッション**
- 17:25 …… 閉会挨拶 松尾 宣武 (公財)小児医学研究振興財団常務理事

主催:(公財)小児医学研究振興財団 **共催:**(公社)日本小児科学会

後援: 厚生労働省 練馬区 (一社)練馬区医師会 (公社)日本小児保健協会
(公社)日本小児科医会 (一社)日本保育保健協議会 (公財)母子衛生研究会
(公社)日本産婦人科医会

協賛: MSD(株) 大正富山医薬品(株) 富山化学工業(株) 日本マクドナルド(株)
Meiji Seika ファルマ(株)

<http://www.jfpedres.or.jp/>

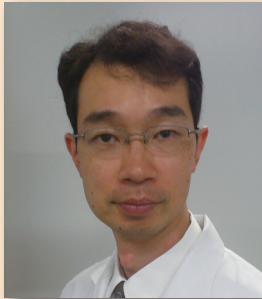
小児医学研究振興財団



公益財団法人 小児医学研究振興財団

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
Tel:03-5818-2601 Fax:03-5818-2602
E-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

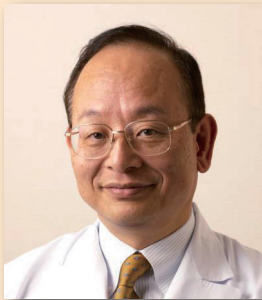
1 発疹と感染症 —いろいろな発疹性疾患—



新庄 正宜
慶應義塾大学医学部小児科専任講師

略 歴	
平成 5 年	慶應義塾大学医学部卒業、同病院研修医（小児科）
平成 7 年	国立霞ヶ浦病院小児科
平成 9 年	国立感染症研究所ウイルス第一部勤務
平成12年	慶應義塾大学医学部助手（小児科学） 兼 同病院感染対策室 医師
平成14年	学位取得
平成17年	米国NIH短期研修（インフルエンザ疫学）
平成19年	慶應義塾大学病院感染対策室 室長補佐兼務
平成22年	同病院感染制御センター副センター長兼務
平成25年	慶應義塾大学専任講師（医学部小児科学）
所属学会など	
	日本小児科学会（専門医）、日本感染症学会（指導医・専門医、評議員）、日本小児感染症学会（評議員）、日本環境感染学会（評議員）、インфекション・コントロール・ドクター

2 咳と感染症



尾内 一信
川崎医科大学小児科主任教授

略 歴	
昭和55年	山口大学医学部 卒業
昭和55年	国立岡山病院小児科研修医
昭和61年	米国オクラホマ州立大学医学部小児感染症科リサーチフェロー
平成 1 年	済生会下関総合病院小児科部長
平成14年	川崎医科大学 小児科学2講座 教授
平成18年	川崎医科大学 小児科学講座 主任教授
所属学会など	
理 事	日本感染症学会、日本化学療法学会、日本小児感染症学会、日本渡航医学会、日本小児アレルギー学会、日本小児呼吸器疾患学会、日本クラミジア研究会、Asia Pacific Travel Health Society
ガイドライン	小児呼吸器感染症診療ガイドライン監修代表、JSC・JAID感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員、小児の咳嗽診療ガイドライン作成委員

3 嘔吐と感染症



田島 剛
博慈会記念病院小児科

略 歴	
昭和56年	帝京大学医学部 卒業
昭和60年	帝京大学大学院 卒業
	米国 ヴァンダービルト大学 小児感染症科 リサーチフェロー
	帝京大学医学部小児科 助手
平成 元 年	国立習志野病院小児科 医員
平成 2 年	帝京大学医学部小児科 助手
平成 6 年	博慈会記念病院小児科 部長
平成 9 年	博慈会記念病院 副院長
所属学会など	
	日本小児科学会代議員 日本小児科学会雑誌 編集委員
	日本小児感染症学会 理事 小児感染免疫 編集委員長
	予防接種推進専門協議会 委員

発疹(ほっしん)が出る感染症にはどのようなものがありますか

発疹には、水疱（水ぶくれ）ができるもの、紅斑（赤くなり、圧している間は色が消失するもの）、中でも丘疹性紅斑（赤いぶつぶつができるもの）、などいろいろあります。水疱では、水痘（みずぼうそう）・水いぼ・手足口病が、紅斑では、リンゴ病、突発性発疹、溶連感染症の他、最近ほとんど見られなくなった、麻疹（はしか）、風疹（三日ばしか）などがあります。また、皮膚やその奥に、菌が直接感染するとびひ（伝染性膿痂疹）や、蜂窩織炎などもあります。

発疹性疾患をどうやって診断するのですか

皮膚の所見をみてわかるものもありますが、経過や流行状況を伺って診断をつけるものもあります。他に、溶連菌は、のどをぬぐって診断します。ウイルスによっては、採血をして、病原体を調べる場合もあります。

子どもは風邪をひきやすく呼吸器感染症にかかることが非常に多い。そして、呼吸器感染症の主要症状が発熱と咳である。したがって、子どもが咳をしていれば、呼吸器感染症の可能性が非常に高い。小児科で診療していると、保育園に通いだしたとたんに「よく熱を出す」、「ずーっと鼻水を出している」、「ずーっと咳をしている」などと、よく保護者から耳にする。小児科を受診する実に10人中4人は呼吸器感染症が原因である。しかし、喘息などのアレルギー疾患でも、咳を伴うことが多い。また、ストレスによっても、咳がつづくこともある。一見同じような咳なので、区別することは困難のように思われるが、原因によって咳にはそれぞれ特徴があり、比較的容易に区別できる。朝方によくでる咳、夜によくでる咳、夜中によくでる咳、眠ると止まる咳、痰の絡んだ咳、乾いた咳、続け様にでてなかなか止まらない咳など、それぞれ原因を大まかに絞り込むことができる。

始めに

嘔吐を訴えて小児科の救急を受診する患者さんは、実はとても多いのです。咳や鼻水で来院する患者さんと同じくらいいます。確かに、お子さんが急に吐き出したらお母さん方は心配ですね。嘔吐には様々な原因があります。また、心配な嘔吐と様子をもてもよい嘔吐があります。どのように、区別したらよいのかできるだけ分かりやすく話をしたいと思います。

嘔吐の原因は？

嘔吐の最も多い原因は、皆さんよくご存じの「ロタウイルス」や「ノロウイルス」によるウイルス性胃腸炎です。ロタウイルスは最近ワクチンが開発されて任意で予防接種を受けておられるお子さんが増えてきました。できる限り早く定期化されるように、小児科学会をはじめワクチンに関係の深い団体が強く働きかけています。定期になれば、患者さんはずっと少なくなることが予想されています。ノロウイルスのワクチンも開発されていますが、まだ実用化には時間がかかりそうです。夏季の食中毒で有名な腸炎ビ

発疹性疾患は隔離するのですか

疾患によって異なります。上記の中では、水痘、麻疹、風疹における隔離基準が、学校保健安全法施行規則第十九条で具体的に定められています。

発疹性疾患をどうやって治療するのですか

通常、発疹そのものに対しては、症状にあわせて治療（かゆみをおさえる、など）となります。抗ウイルス薬は、水痘ウイルスやヘルペスウイルスに有効です。内服の抗生物質は、溶連菌感染症に有効です。なお、菌が直接皮膚に感染した場合には、その場所への外用の抗生物質軟膏や、内服の抗生物質、場合によっては点滴の抗生物質で治療を行います。

日本小児呼吸器学会では、子どもの咳の鑑別法、診断法、治療法についてわかりやすく解説した「小児の咳嗽診療ガイドライン」を2014年に発刊している。「小児の咳嗽診療ガイドライン」の編集に参画した経験を生かして、本講演では、咳を来す呼吸器感染症にフォーカスを当てて、「小児の咳嗽診療ガイドライン」を参考にしながら呼吸器感染症の種類やその咳の特徴をお話しし、心配のない咳、気をつけないと危険な咳の見分け方などについてもお話ししたい。

ブリオやブドウ球菌などの細菌感染症も嘔吐の原因になります。このような胃腸炎に伴う嘔吐は、しばらく経口摂取を中止しているとその後自然に水分摂取ができるようになります。基本的には自然に治っていく病気だと考えてよいのです。中には、嘔吐が止まらずに病院で点滴が必要になることもあります。それでも数日以内には特別な治療をせずに治ってしまいます。少しずつ子供用のイオン飲料を与えることが大切な治療になります。

心配な嘔吐は？

お子さんが嘔吐しているときに、とてもまれですが怖い病気が隠れていることがあります。髄膜炎や脳炎などでは高熱とともに嘔吐することがしばしば認められます。また脳の出血や腫瘍でも嘔吐が最初の症状であることがあります。お子さんの意識が悪いとき、うとうととすぐに眠ってしまうときやけいれんを認めるときは小児科医のいる救急病院を受診することをお勧めします。